

2009年(平成21年)11月17日(火曜日)

増毛山道の復元支援へ ルートの有効活用も検討

留萌支庁は、増毛山道の会(伊達東会長)が取り組んでいる増毛町別荘と石狩市浜益地区を結ぶ増毛山道(全長約三十八

キ)の復元作業に対して支援策やルートの有効活用を検討している。増毛山道は、マシケ漁場を請け負っていた商人が、自費で開削した山道。増毛山道の会が、山道を後世に伝えるため今年から復元の伐採作業を始めた。支庁は復元を後押しする事業や山道のルートを経登山、ハイキングなど地域住民が親しめる利活用を考えている。

山道は、江戸時代末期の安政四年(一八五七年)に開削され、漁場の連絡道やロシア北方警備の輸送路として活用された。すでに往来する人はなく、ササが繁るなど荒廃して忘れられた山道になった。

増毛山道の会は、歴史ある閉ざされた山道を再生するため、二十年十二月に増毛町や留萌市、札幌市、石狩市などの有志で組織された。会員が九月中旬から十月下旬にかけて伐採作業を行い、増毛町の入り口になる別荘側約四キロを復元し、来年以降も作業を継続する予定だ。

支庁は、復元作業にかかわる新規事業を計画するとともに復元ルートがだれでも利用できる方法も検討する。今のところ別荘から約十五キロ地点にある増毛町岩老に下りる抜け道ルート約五キロを復元して利活用する考えだ。復元の予算措置や方法などは未定だ。

支庁環境生活課は「二十二年度以降、増毛山道の会とも協議して復元方法や利活用を探り、歴史ある山道を有効に利用したい」と話している。